**2016年度ミシガン大学救急部実習報告**

**M3 Female**

私は2017年1月5日から2月5日の4週間、米国ミシガン大学の救急部で実習をさせていただきました。後輩の皆さんにとって少しでも参考になれば幸いです。

ミシガン大学に応募しようと思ったのは、せっかくの機会だし海外に行きたい、将来仮に海外で臨床をやるにしてもその時になっていきなり渡航するのは勇気がいるだろうし学生という身分のうちに実際の医療を見てきたいという理由からでした。

TOEFL:

 ミシガン大学での実習を受け入れてもらうためには90点以上が必須となります。早めに高得点をとって国際交流室での面接時に提示できると有利になるかもしれないと思いました。私は7月と遅めに受験したのですが、面接のときは「これから受ける予定ですが点数は問題なく取れると思います」と言い切ってしまいました。

国際交流室での面接：

　日本語と英語の面接でそれぞれ5,6分程度でした。日本語面接は栗原先生、孫先生、丸山先生、英語面接はDr. Green, Mr. Holmesでした。簡単に志望動機などを用意して臨みましたが特に問題なく終了しました。英語面接では普段の医学英語の授業での印象が大きく影響してそうだと思いました。面接の数日後にミシガン大学に派遣していただけるとの連絡をいただきました。

ワクチン：

　夏休みに入ってから準備を始めたため、かなり慌ただしくなってしまいました。国際交流室からの派遣が決まったらすぐに準備を始めた方が心に余裕ができるのでおすすめです。具体的な内容については交流室からの書類に従えば大丈夫ですが、ミシガン大学では今年からツ反陽性の場合はQFT試験が必要になっているほか、annualなインフルエンザ予防接種が必要になったので注意が必要です。QFT試験は保健センターのトラベルクリニックでは取り扱いがないため、他の場所を探す必要があります。私はワクチン関係は全て日比谷クリニックにお世話になりました。

書類：

　国際交流室からの派遣が決まってもそこからミシガン大学に応募の手続きをしなければなりません。ワクチンを含めCV, Personal Statementなどを用意します。それらを国際交流室からミシガン大学のGlobal Reach事務局へ送っていただき、9/28に受け入れの返事がGlobal ReachのCarrie Ashtonさんからメールで届きました。一個上の学年までは応募の時点で希望診療科のリストを提出していたようですが、今年からは大学への受け入れが決まった後で診療科への振り分けを行うため、Carrieさんとやり取りをする中で希望リストを提出します。11/2に第3希望の救急に決定した旨のメールをいただきました。

実習：

　向こうでのスケジュールとしては実習が始まる前週の金曜日にオリエンテーションがあるため木曜日には到着してほしいと言われ、1/4に出発してシカゴ経由でデトロイトに1/5に到着しました。

デトロイト空港に着いてCarrieさんに連絡をすると、大学が運営しているAirport Shuttleの人が迎えに来てくれ、寮まで連れて行ってくれます。そこでCarrieさんと初対面を果たし、寮の中を簡単に案内してもらったらその日は終了です。

　翌日のオリエンテーションはCarrieさんによるもので、同じくGlobal Reachを通して実習に参加するというサンパウロ大学からの学生と上海大学からの学生と一緒にまわりました。病院の中を案内していただき、救急のClerkship CoordinatorのKailey Bartrumさんに挨拶に伺ったあと、バスのチケットセンターや携帯ショップに連れていっていただきました。白衣を丈の長いものしか持っていなかったので学生用の短い白衣を買いにも連れて行ってくださいました。

　月曜は9時にKaileyさんのところに行き、救急の実習についてのオリエンテーションを受けました。そのときに実習のスケジュールを渡されましたが、4週間の中で8時間シフトが13回しか入っていなくて正直驚きました。KaileyさんによるとUMの学生も同じ時期に実習をしているため、これ以上は入らないとのことでした。月曜と火曜は現地のM4学生に講義が行なわれているということで、参加させていただきました。内容は蘇生や挿管、ギプス固定などの実技から中毒症への内科的アプローチなど救急のオリエンテーション的なものでした。

　救急のシフトについては16-24時または15-23時のEveningシフトに入ることが多かったです。毎回新しいattendingとresidentについてまわっていたことに加えObserverとしての参加だったことを先生方もよく把握していたため一人で問診を取りに行くということはほとんどありませんでしたが、どの先生も非常に親切かつ教育熱心で問診のあとで「君はどう思う？」と聞いてくださったり「質問はないか」とこちら気にかけてくださいました。最初は緊張していたこともあり先生の後をついていくのに精一杯でしたが、日が経つにつれて胸痛や腹痛、呼吸困難などよくある症状に対しては何を考えどのような検査を組み立てるべきか自然と思いつくようになりました。また、初日のattendingの先生に救急について勉強するにはどのような教科書がオススメかを聞いてみたらTintinalliという本を勧めてくださり、大学のオンライン図書館で読んでみましたがわかりやすかったです。

　シフトのない日は寮でゆっくりしたり、大学のキャンパスに行ったりして過ごしていました。ミシガン大学のキャンパスは非常に広く、建物がとても美しいので週末など空いた時間に散策するのはとてもおすすめです。

　寮はとても快適でした。平日は毎晩シェフのLynnさんが夕食を作ってくれます。前評判ではあまり期待しない方がいいと言われていましたが、アメリカにしてはとてもヘルシーで私は毎日美味しく食べられました。朝は毎日ベーグルが届けられるほかキッチンの冷蔵庫にはパンやチーズ、ハム、トマト、マヨネーズなどが常備してあるので朝食や昼食も自分でサンドイッチなどをつくって食べることができます。食費、洗濯機使用料(洗剤も)、Wi-fiまで込みで月に980ドルほどだったと思うので近くのアパートなどを借りるより断然おすすめです。

1ヶ月の実習を終えて圧倒的に成長したかと問われると難しい部分もありますが間違いなく今後につながる貴重な経験となりました。

最後になりましたが、今回の海外実習にあたり支援してくださった両親、書類だけでなく様々な面でもサポートしてくださった丸山先生や名西先生をはじめとする国際交流室の方々、アドバイス等をいただきました先生方や先輩方に感謝申し上げます。